

高栄養価牧草を用いた草地改良推進

【令和4年度補正予算額 3,044百万円の内数】

<対策のポイント>

輸入飼料から国産飼料への転換を図り、飼料自給率の向上と畜産物の安定供給を実現するため、既存のイネ科主体の草地等から高栄養価なマメ科牧草主体の草地への転換のための取組を支援します。

<事業目標>

飼料自給率の向上（25%〔平成30年度〕→34%〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

1. 高栄養価牧草を用いた草地改良への支援

都道府県等の普及指導機関・試験研究機関等と連携し、以下の高栄養価牧草導入の取組を支援します。

- ① 高栄養価牧草に適した草地の診断
- ② 土壌分析に基づく土壌の酸度矯正
- ③ 除草剤の播種前処理等による雑草対策の実施
- ④ コート種子を利用したマメ科主体草地への転換
- ⑤ サイレージ化のための添加剤使用

2. 上記の取組に必要な土壌・堆肥・飼料分析、概況調査、技術普及等の取組を支援します。

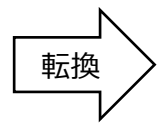
<事業イメージ>

以下の栽培管理技術について、普及指導機関からの指導により取組を実施

- ・適した草地の診断
- ・土壌の酸度矯正
- ・雑草対策
- ・マメ科主体草地への転換
- ・サイレージ化のための添加剤使用

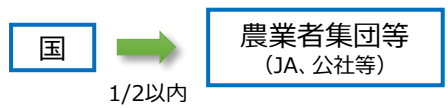


○生産性が低下したイネ科主体草地



○高栄養価なマメ科主体草地（アルファルファ）

<事業の流れ>



アルファルファの給与により、イネ科牧草に比べ乾物摂取量が増加 ⇒ 濃厚飼料の給与量削減が可能